

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600521		
法人名	有限会社やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	岡山県勝田郡奈義町高円1736-11		
自己評価作成日	平成24年11月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373600521-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と共に考え、思ったらずぐ行動！利用者には外出が好きで、天候や利用者からの希望に応じて外出している。
 利用者との関係が築け、笑い声がいつも聞こえるホーム。多くの決まりごとを持たず、少人数ならではの時間の過ごし方をしている。
 又、地域の方々と交流することで気軽に訪問して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3月の初めでも雪を心配しての訪問だったが、山麓を覆う雪は少なく「今冬は寒かったけど雪が少なく助かったよ」と、自室から「若い時は私の庭だった」那岐山を仰ぎ見ながら、Aさんはここで野暮らしや思いを話してくれた。「本当は寂しいんよ。でも、ここが一番」と、本年をもチャッと漏らしてくれる笑顔に、管理者や職員の「難しい事は置いて、とにかく楽しい事をやりたい。皆さんと一緒にいつも笑ってほしい」の言葉が重なる。ここしばらくの間に利用者の入れ代りもあり、現在は久しぶりに活動的な日常が計画的に、また、突発的に実現出来る状況となっている。フットワークの軽いこのホームは今、利用者も家族も、そして職員も「グループホーム本来のあり方」を実践しながら、胸をワクワクさせている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入社時に説明。ミーティング時に理念がケアに反映されているかを職員間で話し合い、統一を図っている。	前回はそうだったが、今回も私達がホームに到着した時は車でお出かけの最中で、もちろん私達も同行させてもらった。今日は幼稚園の雑祭り招待だったが、誰かの一声で直ちに今日の予定が決まる。しかも「全員で」と言う事も多い。「施設と言う枠」を可能な限り外そうとしているホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加や幼稚園との交流を続けることで、園児やその家族が切り花を持ってきてくれるなど、互いに楽しみにする関係ができている。子供110番の受入れや、地域の方と気軽に挨拶を交わす、近隣の方と立ち話ができるなどの関係が築けている。	この地域特有の伝統的行事に地域の一員として参加させてもらったり、ホームでの行事に近所の顔見知りもそうでない人も参加してくれる等、極く自然体で良い関係が見られる。散歩で出合った近くの方が介護の相談をしかけたりもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前から活動してきた、生活支援サポーター育成講座も継続しており、地域で活動するサポーターもできている。認知症についての研修会に参加し、認知症の理解等を行い、中学生の研究への協力、実習生の受け入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では家族も気軽に参加して頂き、利用者の状態を良く把握して下さっている。参加できなかった家族には議事録を送付している。ホームの状況など細かく報告し理解を深めている。	運営推進会議を有効利用し、サービス向上につなげようという課題を目標達成計画にあげて、非常に素晴らしい成果を得ている。特に利用者及び家族の参加が多い事や有意義な意見交換が見られている所が良い。	運営推進会議の内容が良く記録も分かり易いので「不参加の家族にも情報を共有する為に送付してはどうか？」と言う提案は実現しているので、今度は出された提案・意見の評価をその都度確実にしていけば、もっとステップアップできると思
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談や協力を得たり、ホームでの様子や情報を共有できる場として地域ケア会議に参加し連携を図っている。職員や利用者とも定期的に顔を合わせ、適切なアドバイスもあり、良い関係が作れている。	運営推進会議での意見交換等の場で、例えば地域の人からの奈義町の福祉サービスの現状についての質問に答えたり、ホームの活動に役場の手を差し伸べる事もある等、非常に良い協力関係が築かれている記録が見られた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りや対応を振り返り、研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。個性の把握、見守りを重視する姿勢で鍵を掛けない環境作りができている。	もちろん禁止の対象となるような具体的な事例は全くないが、利用者と職員の垣根が感じられないような間柄になっているだけに、利用者への声掛け等反省したり研修したりしている。玄関の施錠についても、運営推進会議で話し合い、「日没の施錠」を決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の見守りや対応を振り返り、研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やミーティングで確認や学ぶ機会を持つようにしている。対応が必要と思われる利用者がある場合は、利用者、家族、市町村担当者等と相談しながら利用者の支援に結び付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には個別に時間をとって一方的な説明にならないように心がけている。疑問等については十分説明して納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には電話や来訪時に意見や要望等を問いかけ、何でも言ってもらえる関係作りを心がけている。思いや意見を表す事の出来ない利用者も、共に暮らしていく中で、嫌な事、好む事を捉え、運営に生かしている。	運営推進会議の記録が非常に分かり易く、利用者本人や家族の思い、希望・質問等がよく伝わってくる。参加者も多く情報もオープンにしているので、意見を聞いたり運営に反映させるチャンスが多い。生活記録等からも同様の姿勢がよく伺われる。	利用者・家族の思い(苦情・意見・希望・訴えその他)を汲み取り、「言葉」として記録しようとする努力はよく感じられる。今後は記録が重複しないよう、より効果的な方法を検討したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週一回のミーティングで業務・経営改善等の意見を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、何でも言ってもらえるような関係作りを心がけている。	ここでは利用者と職員の壁が感じられないばかりか、職員間の空気も打ち解けた感じで心地良い。ホーム開設以来培われてきた雰囲気なのだろう。日常的にスムーズな意思疎通に加えて、週一のミーティングが有効と思う。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に出て利用者や過ごしたり、職員の業務状況や悩みを把握しようと努めている。また、職員の資格取得に向けた支援を行ったり、勤務中には気分転換できる休憩室を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームに講師を依頼するなど、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。又、研修内容はミーティング等で共有し、研修報告も閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの見学や交流を通じて意見や経験から学び、サービスの質の向上を目指している。介護支援専門員協会勝英支部の役員会には1回/月参加し、情報交換や交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用者に向き合い、気持ちや不安を受け止め、利用開始前にも訪問することで信頼関係作りに努めている。利用者によっては体験利用してもらう等の対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、求めていることを十分に聞き、受け止め、話し合いや関わりを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り家庭に近い環境が保てるよう、必要に応じて柔軟に対応できる体制を整え、安心・納得しながら利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いや願いを職員が共有しており、得意なこと、出来ることを見極め、お互いが協働しながら生活ができるように場面作りをしている。職員は利用者から知恵を学ばせてもらうことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や状態を伝え・相談し、家族が活躍できる場面や役割を作っていくことでケアの充実を図っている。電話の支援や季節の絵葉書を家族に送るなど関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの暮らしの情報を収集し、地域の馴染みの方や昔から利用している美容院、商店とのつながりを継続できるように取組んでいる。面会時間の設定は無く、家族や知人が自由に来訪している。	殆んどの利用者が奈義町民で、買物でも散歩中でもよく行会った人と「やあ、やあ」となる。ホームも地域の方に気軽にお茶を飲みに来ていただけるよう努めている。今日の幼稚園訪問も「うちのひ孫を見に行くんじゃ」と嬉しそうな人も居た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルもあるが、個性や利用者同士の相性を考慮し、さりげなく席替えを行うなど職員が調整役となり、良い関係が保てるように努めている。ホールや自室に招き入れ、利用者同士で会話を楽しませている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約の終了後も経過を見守ったり、会いに行く等の継続的支援を心がけている。ご家族から連絡を下さったり、立ち寄って下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者の言葉や行動、表情から把握に努めている。希望や意向を明確に把握しにくい入居者に対しても家族から過去の生活歴などの情報を得て、個々の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。	このホームが最も力を入れている項目の一つがこの「思いや意向の把握」かも知れない。日々の生活記録・行事記録・苦情ノート、その他色々な記録の中に本人の声が散りばめられているこのホームの理念が感じられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、利用者をよく知る関係者より、生活歴や生活習慣等の情報を収集し、利用者の人生の過ごし方について捉えることを継続的に積重ねている。又、新たな気づきも情報シートに残し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送りや利用者の1日の過ごし方や状態を確認し、持てる力を最大限発揮できるよう、できる力、わかる力を把握することに努めている。一人ひとりの一日がその人らしく自然に過ごせるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や定期的な連絡で話したことや週1回のミーティングで話し合った利用者の変化を分かりやすくし、本人・家族が見やすくスタッフが統一のケアが行えるようシートの検討も行っている。最近では、アセスメントシートの変更をした。	従来よりケアプランやモニタリングについては熱心に検討し続けてきたが、さらに続けて目標達成計画に掲げ、「利用者・家族に見やすいケアプラン」を課題にしている。今後も継続してより良いものにして欲しい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気づいた事、利用者の気持ちや言動を常に記述ができ、暮らしや日々の顔が読み取れるよう個別にファイルし、職員間で情報の共有を徹底し介護計画や実践につなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が、安心、満足の保たれた暮らしが続けられるように、医療、食、日々の生活の中では墓参りや選挙に行くなど、要望に応じて柔軟に対応できるように職員配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのかかわりをもった自由と安らぎがある暮らしが保てるように、地域のボランティアを活用したり、地域の行事等には積極的に参加し、情報交換や協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。主治医には情報シートを提供しており、信頼関係をもとに質向上を目指している。また、体調不良時など24時間の緊急対応が可能であり医療面での安心した提供を確保している。	受診は主として職員が付き添っているが、家族が同行する事もある。今の所はホームの協力医の往診を半数程度の人が利用している。今後受診が増える等、状況によっては往診による受診をお願いする旨、利用者に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの関係を密にし、日常の健康管理や医療面での相談・助言・対応、利用者の状態を勘案し、馴染みの関係を構築してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との会議を1回/月行い、連携を図っている。入院する際は医療機関に情報を提供し、1回/2日は見舞うようにしている。また、医師、家族とも話し合いの機会を持ちホームでの対応可能な段階でなるべく早く退院できるように情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況の変化に応じて、利用者や家族の意向を確認し、対応できるケアを説明している。医師はホームでの看取りに理解があり、ホームで医療が受けられる。利用者、家族が安心と納得を得られるように、医師、職員が連携を図り体制を整えるようにしている。	最近、看取りの状況は無いが、開設以来何人かのターミナルケアを行った経験はある。医療体制については協力を得られる状態なので、利用者が重度化した場合は、関係者とよく話し合い、その都度方針や協力体制を共有しながら積極的に取り組もうと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故予防・再発防止・緊急時の対応についてマニュアルがあり、周知徹底を図っている。応急手当や緊急時の対応方法についての研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の対応マニュアルがあり周知徹底を図っている。消防署や地域の消防団の協力を経て避難訓練等を2回/年行い、夜間を想定した訓練も実施している。近隣の方との災害時の協力体制もできている。	現在利用者が自分で歩ける人が多い事やホームが平屋である事、ホームの立地条件その他から、災害は比較的少ない状況かもしれない。しかし、スプリンクラーも設置し、避難訓練や必要な対策は実施している。	一昨年の大震災や他県の介護施設の火災以降、各グループホーム等の災害対策は今までに比べてより現実的な捉え方に変化している。このホームでも運営推進会議や家族会等でも議題にして、より具体的に話し合ってはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルがあり、利用者の気持ちを大切に考え、さりげない言葉かけや対応、利用者に合わせて言葉かけが行えるようミーティングで話し合い、管理者、職員とも振り返りと徹底を心がけている。	家族にはホーム便り(GHやまなみ)を毎月送って日常の様子を知らせているが、それぞれの人の「状況調査及び報告書」も送っている。これらの便りからも、「心に残る・生活記録」等からも、一人ひとりを尊重した対応の日常がしっかりと読み取れる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で表した心身の情報を職員が共有し、利用者の状態に合わせて自己決定しやすい言葉かけや場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務計画表があり、基本的な1日の流れは決まっているが、利用者のペースを大切にし、日々の言葉などからしたい事を把握し、個別に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取組んでいる。自己決定のしにくい利用者には、職員と一緒に個性を生かした装いになるよう支援している。また、馴染みの理・美容店の利用など個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、食事、片付けなど利用者の能力を活かしながら職員と一緒にやっている。献立は利用者と相談しながら季節の食材を取り入れ、味や人との交流を楽しんでいる。又、年中行事や祝い事には器を変えるなど、雰囲気作りも大切にしている。	現在は一部の人にその人に合わせたキザミを入れる程度で利用者全員同じ物を同じように楽しみながら食べることが出来る。「あれも食べたい」「これも食べたい」で外食も盛んなようだ。運営推進会議の記録(本人の発言)に「ビフテキを食べに行きたい」もあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の習慣や日頃の様子を観察しながら柔軟に利用者に応じた対応をしている。また、医師と連携しながら食事・塩分・水分量を把握し疾病管理を行っている。栄養士には栄養指導を受け、ホームでの健康管理に活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の習慣や状態に応じて、持てる能力を活かしながら、口腔内の清潔保持に努めている。毎食後には歯磨き・就寝前には洗浄し、清潔を保っている。協力歯科医には口腔に関係する全般のケアについて指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立が出来るよう表情や様子から尿意・便意を察知し、さりげなくの誘導。自ら訴えのない利用者も排泄パターンを知ることでトイレで排泄できるよう支援している。紙パンツ等は利用者に合わせて検討・見直しをミーティングで行っている。	現在は、夜間だけおしめの人が一、布パンツの人が半数程度と言う、自立した人の多い状況である。排泄の自立は高齢者の生活全般に関わるので、現状を一日でも長く続けられる為の工夫や支援の努力を続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に依存せず飲み物や食品に配慮すると共に、日々の生活の中で運動や十分な水分補給を働きかけ自然の排便を心がけている。また、レクリエーションでは利用者と一緒に腹部マッサージを行うなど、便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は1回/2日の入浴となっているが、利用者の希望に合わせて入浴できるよう、柔軟に対応している。また、季節を感じられるように柚子風呂やバラ風呂などを楽しんでいる。身体機能の低下した場合にリフトも設置している。	「我が家の風呂」に入るような落ち着いた浴室に、職員が色々な工夫を重ねている。入浴拒否の人に対して、「あんたが一緒なら」にOKしたり、場所を変えて温泉や職員の家の風呂へ連れて行く等、様々な手を使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や活動状況を把握し、できるだけ日中に活動して過ごせる環境作りに努めており、入眠の時間帯に合わせて個別の支援を行っている。また、体調や表情、希望に配慮し、ゆっくり休息できるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬品名カードを個別にファイルし、職員がいつでも内容を確認、把握できるようにしている。1人ひとりに合わせた服薬介助をミーティングで話し合い個別の対応をし、状態変化が見られる時は医療機関との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年なじんだ習慣や好み、経験を発揮できる役割を作り出すように場面を作り、働きかけている。外出や行事などの楽しみ事は利用者と相談しながら行っている。最近では利用者のご家族がギターを持って演奏してくれるのを楽しみにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や天候に応じて、利用者と相談しながら積極的に外出している。外出や外泊などに不安を感じる家族には、ホームでの様子やケアについて話し合い、急変やトラブルにも対応できる体制を整えており、ご家族との外出する機会も大切にしている。	記録の中に「こんなばーさんを色んなところへ連れて行ってもらえてありがたい」「家でみてたら、こんなに外へ連れて出られない。喜んでます」等々、本人・家族の言葉が多く見られたし、今日の一日の訪問中でも「出たがり」の人の自慢話が一杯聞けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や家族の協力を得ながら、少額のお金を持っている方もいる。 外出時には希望・要望があれば自ら買いたいものを買ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	人目を気にしないで話がしやすい場所へ電話を設置している。家族等へ本人の希望、ホームでの行事ごとや季節の絵葉書を送る支援をしており、返信もある。利用者や家族の希望に応じて、日常的に電話ができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、利用者と一緒に作った壁画を貼ったり、季節の花や実を飾るなどして、居心地がよく、安全と衛生の保たれた暮らしが出来るように努めている。窓から見える風景は梅、木蓮、紅葉、那岐山の雪化粧など、季節が感じられる。	リビング等の大きな作品について家族から「毎月違う作品が作られていますね」との話が出ると「皆と色んな事せにやーなッ。何かせんとボケるがな！」の利用者の発言の記録が見られた。リビングも晴れた日のウッドデッキも笑いで溢れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やデッキにはガーデンテーブルを配置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士がくつろげる空間作りに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしく暮らせる居室となるように、今まで家で使っていた食器や家具、布団、馴染みの物や思い出の品々が環境作りに必要なことを家族に理解、協力をお願いし、個別に応じた工夫に取り組んでいる。	各居室にも飾られている大きな作品は、「皆で毎月一つ頑張って造るんよ」と自慢して見せてくれる人もいた。居室で呼んでいる本や時々つけるという日記について話してくれる人・身寄りがないので犬と同行二人の話を聞かせてくれる人も居た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状態に合わせて、ベッドに手すりを付けるなどの工夫をしている。状態に変化があれば、その都度、ミーティングで話し合い、持てる能力を活かした暮らしが出来るように環境整備に努めている。		